
異世界トリップっぽい

藤袴 奥継

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界トリップっぽい

【Nコード】

N8585X

【作者名】

藤袴 奥継

【あらすじ】

なんだか、よくわからないうちに異世界に飛ばされ、迷宮にとばされ、モンスター倒したり、レベルアップしたりする話し。初投稿の練習用作品です、稚拙な文章ですが暇つぶしにでも、読んでいただけたら幸いです。

1話目っぽい

俺、如月士郎キサラギシロウは困惑していた。

ここは、どこだ？

確か俺は、会社で仕事して、電車で帰ってきて、家のドアを開いたんだよな…、いつから俺の家は荒野になったんだ？

玄関開けたら、荒野にポツーン、しかも今は、夜10時のはずなのに頭上には太陽が燦々と輝いていて、なんだかわけがわからない。とりあえず、どっか人がいないか、交番がないか探そう…。

彷徨い歩く事、数時間、どうやら人のいる場所に出れたみたいだ。

俺、運がいい…と思いきや、あきらかに、日本人に見えない人々が…、町並みも日本というよりは、中世ヨーロッパといった感じ、舗装されていない土そのままの道路に、風車のついたデッキカイ建物、道は馬車が行き交い、何より日本語で会話してないっぽい。

道を聞くとかできねええええ。

言葉通じねえ相手に話しかけるとかできねええええええ。

俺は人見知りやっちゆうねん。

途方にくれつつも、未練がましく町？の外周をフラフラ歩いていると石柱が3本程あった、文化遺産っぽい広場に出た。

正面と左右に石柱が建っていて、その中央に魔方陣ぽいものがある。何だろうか？と、思って近づいていって、魔方陣の上に乗ると、

ぶづううん

と音がして、景色が変わった。

???

混乱しつつも、あたりを見回す、前後、左右と煉瓦で造られた壁があり、その壁に剣が数本立てかけられている、壁と剣の他には、ドアがいくつもある。

ドアはあるけど、完全に密閉された空間だ。

あの魔方陣は転移装置か何かだったのだろうか？どっかの屋内にとばされたっぽい、足元を見たが魔方陣っぽいものはない、もどれなっぽい。

まあ、戻れないものはしょうがない。

というか、最初の荒野にポツーンの時点でもうアウトだしなあ。なんとまあ、剣とか魔方陣とかがあるってことは、俺はファンタジー世界にでもやって来たってことなのかなあ？、とか考えてみると、よくある異世界トリップものみたいに召還されたりしたのかね？とりあえず、考えていてもしょうがないので、壁に立て掛けてあった剣を一本取り部屋を出てみた。

2話目っばい

部屋を出てみると、外にはモンスターっばいものがいた。

見た目はちよつと人間っばいが、肌が緑色で顔がのっぺりしている。体全体が鱗で覆われていて、正直キモイ、頭にはちゃんと髪の毛がふさふさと生えていて、生意気にもさらさら金髪ヘアである。

そいつがイキナリ襲い掛かってきた。

ブンッ！

と、腕を振り回してきたのだが、こいつ、動きがメツサのろい。

難なくかわし、剣で斬りつける、こっちからみて左側の腹から右上の肩口まで剣をなぎ払う。

ザクッ！

つと、体に食い込んだ剣は意外と抵抗なくモンスターの体を切り裂き、上半身と下半身がさようならして、真っ二つになったモンスターは、そのまま影がうすくなり消え去った。

モンスターが消え去った後、なんとなく、体に力が溢れたように感じた。

経験値でも手に入れたのかね？

倒したモンスターは跡形もなく消え、経験値を手に入れると…、これでお金も落としてくれれば、まんまRPGなんだけどねえ。

あの後、ちらほらと見かけるモンスター剣で斬りつつ、フラフラと歩いていると

【ピロリロリロリン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、モロにRPGですな、俺は異世界ファンタジー飛ばされたんじゃないやなく、ゲームの世界に入ってしまったのだから…。

それにしても、レベルってなんだ？っていうか今、何レベルだ？とか、考えていたら、頭の中にステータス画面が浮かびあがってきた。

NAME	シロウ
LV	2
HP	120
MP	140
ST	120
STR	153
VIT	161
DEX	121
AGI	161
INT	170
RES	130

LV2か…、ステータスは軒並み100を超えているけど高いのだ

ろうか？正直よくわからん。

まあ、これも今考えてもしょうがないんだろうなあ、そのうちわかるだろ、探索を続行じゃあ。

と再度探索を続けていると、前方にちょっと大きめの部屋が見えてきた。

大きめの部屋の中にはたくさん緑色モンスターがいた。

さっきの奴だ…、あつ、目が合った、一斉にコツチに向かってきた。

とろい動きでコツチに向かって来る緑色モンスター、そして出入り口に引っ掛かった。

まあ、人ひとり通れるくらいの幅しかないから一斉に向かって来るとそうなるよね。

とりあえず、こいつらは動きが遅いだけでなく知能も低い事が判明した。

たぶん、カラスとか犬よりバカなんだろうなあ。

とりあえず出入り口で引っ掛かっている奴らを斬り倒し、部屋の中へと踊り入る。

囲まれて圧殺されるとヤバそうだが、こいつら動きがとろいし、頭も悪いから連携なんてしないだろうし、そうそう囲まれたりしないだろう。

斬る 切る KILL とブンブン剣をぶん回しモンスターを薙ぎ払う、数十体ほどモンスターを屠ると

【ピロリロリロリン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、本日2度目のレベルアップですな、ステータスは…、

N A M E	シロウ
L V	3
H P	1 2 1
M P	1 4 0
S T	1 2 1
S T R	1 5 4
V I T	1 6 2
D E X	1 2 2
A G I	1 6 3
I N T	1 7 1
R E S	1 3 1

ほとんど上がってないなあ、まあ、いいか…。

剣をもう一振りして、最後のモンスターを倒す、他のモンスター同様消えたと思ったら、なんか落ちてる。

ドロップアイテムって奴か。

落としたものは、何だか茶色くて丸っこい物体だった、というかパ
ンに見える。

ちっさい、フランスパンといった感じだ。

グウーーーーっ

腹が鳴った。

そういえば昼から何も食ってなかったなあ、腕時計を見ると3時
指し示している。

午前3時、腹も減るってもんです。

とりあえず、パンを食ってみる、固い、そして、まずい、だが、腹

は満たされた。
腹が満たされたら、眠くなってきた。

考えてみたら、今日はハッスルしまくってた事になるからなあ、体が睡眠を求めてるぜ。

だが、此処で寝るとさっきのモンスターに襲われそうだが。最初の部屋に戻って、寝ることにしよう、ドアがついていたし何とかなるだろ。

最初の部屋に戻ってきた。

ドアノブに手を掛けてクルリと回し、手前に引いてドアを開ける。部屋に入った後にパタンツとドアを閉める、ついでに鍵がついていたのでカチャツと回して鍵も閉める、このドア、家の玄関のドアとつくりが同じだなあ…、ファンタジーっぽくない。

とりあえず、あの緑色モンスターに鍵開けのスキルがあるとは思えないし、オーク材？の頑丈そうなドアだからこれで大丈夫だろう。床に横になって目をつむると、一気に睡魔が襲ってきた。

おやすみなさい。

二話目しほい(後書)

ちよしつと 修正

3話目っぽい

翌日、目を覚ます。

一瞬どこにいるのかわからなかったが、煉瓦の壁を見て自分が何処にいるのか思い出す。

夢じゃなかったんだなあー。

のどが渴いたので、コップを持って蛇口をひねって水を出す、そしてコップいっぱい注がれた水を飲み干す、ゴクゴク、うまい。

…

蛇口？

よく考えると、蛇口から水が出るって、変だよな？

とりあえず部屋を探してみる。

壁が煉瓦で出来ている以外は、普通のマンションルームって感じだった。

今、俺がいるところは玄関兼キッチンといった感じだ、剣が立て掛けられていたのも玄関部分だな。

奥にもう一部屋あって、ベッドが備え付けられている、他には風呂とトイレがあった。

しかも、トイレは水洗、水はどこから来ているのだろうか？

風呂も蛇口をひねるとお湯が出る、シャワーもついてる、いたれり

つくせりだな。

さらにキッチンである此処には、流し台とガスコンロ、なべとフライパン、ナイフやコップに皿もある、調味料の類は置いてなかったが。

とりあえず、いい拠点ゲットできたということで、食いつ持を稼ぎにいけますか！

ガチャ！

っと、ドアを開けると目の前に緑の物体が…

びっくりして、一歩引いて部屋に戻る、と、緑モンスターは何事もなく通り過ぎていった。

どうも、部屋の中に入ると俺のことを認識できなくなる、というか、この部屋自体を認識できていないっぽい。

これは、実験してみる価値があるな。

ドアを開けて適当につつかえになる物を置いて、ドアを開けっ放しにしておく、んで、緑モンスターを部屋の前まで誘導してきて、サツ、と部屋に入る。

すると、俺が部屋に入った、とたん標的である俺の事を見失ったのか、フラフラとそのままどっかにいってしまった。

ドアは開けっ放しで視線は通っている、見えなくなったから見失ったという事は100%ありえない、部屋にはモンスターを寄せ付けない結界でもあるのだろうか？

何にせよ便利な事には間違いない、深く考えたら負けな気がするの、当初の予定通りにモンスターぬつ殺して食料ゲットするために出かけますか！

今日も緑色モンスターをボコにする、剣でザクザクと簡単に倒せる、そして、50匹に1匹くらいの割合で食い物をおとす。

パン2個としなびた野菜、カツチカチのチーズに塩をゲットLVも4に上がったし、腹も減ったし、部屋に帰って飯にすることにす。

NAME シロウ

LV 4

HP 123

MP 143

ST 124

STR 156

VIT 163

DEX 124

AGI 166

INT 174

RES 132

部屋に帰ってきた。

とりあえず、めしだめし、パンに軽く水を含ませしめらせる、その後、軽く火であぶる。

チーズもあぶって切れ目を入れたパンにぶっこむ、ついでに野菜もぶっこんで簡易ハンバーガーの出来上がりだ。

水を含ませ、軽くあぶったおかげでパンは若干やわらかくなっており、チーズの塩気と混ぜって、そこそこおいしく食えた。

もう一個のパンは、とりあえず置いておく。

俺の着ているサラリーマンスーツ（間接部はストレッチ素材でウォッシュアップ機能つき9万5千円）は意外と収納力があるが、服をパンパンにさせた状態で戦闘したくはないしな。

腹も膨れたし、もっかい緑モンスター狩りじゃー！

：

ザックザック、グシャー　　ザックザック、グシャー

延々と緑モンスターを倒していく。

ボグシャー　ボグシャー　ボグシャー　　e n d l e s s

： 飽きてきたので、帰る事にする。

今日の戦果は、パン8個、チーズ6個、萎びた野菜5個、塩少々、干し肉1切れ、んでLVが5になった。

N A M E　　シロウ

L V　　5

H P　　1 2 4

M P　　1 4 6

S T　　1 2 7

S T R　　1 5 8

V I T　　1 6 5

D E X　　1 2 6

A G I　　1 6 9

I N T　　1 7 5

R E S 1 3 3

今日はもう風呂に入って、簡易バーガー食って寝るか…。

4話目っばい

翌日…、ここに来てからもう3日目だな、とりあえず腹ごしらえして、今日も狩りに行くか…。

緑の奴らを倒しながらそこいらをウロウロする。

適当に歩いていると、ちよっと雰囲気の違う部屋にでた。

部屋の中央には緑の奴と同じ見た目で体色が赤くなつた奴がいる、色違いだしボスモンスターだろうか？

警戒しながらも近づいていく、緑狩りはもう飽きたんじゃあー！もつと歯ごたえのある奴来ーい！

ある程度近づくと赤い奴が襲い掛かってきた。

が…、

こいつも、とろい、緑の奴より若干速い気もするが相手にならん。

ヒョイツ

と攻撃をかわし、サクサクと剣で斬る、袈裟懸けに斬りつけると一撃で死んだ。

「赤い奴弱っ！ボスじゃねえのかよ！」

赤い奴は、緑の奴同様霞となって消えていった。
すると、ピコーンと音がしたかと思うと

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

という、音声が頭の中に響いてきた。

そして、目の前に3つのアイテムが置かれていた。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、カッコいい、勇者とかがもってそう。

2つ目、革製のミニバッグ？腰につけるタイプのものっぽい、かわいい。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

…どれがいいのかわからん、適当でいいか、とりあえずなんか心惹かれたミニバッグをゲットする。

と、手をつけなかった剣と栄養ドリンクのビンが霞となって消えてしまった。

選ばなかったものは消えるのか…、それよりバックじゃ、革製ミニバッグを腰につける、ふむ、いい感じだ。

バックを付け終わると、また頭の中に音声が響いた。

【次のなかから、欲しい能力を選んでください】

【戦士の才能】

【解析】

【ドロップ率UP】

ふむ、この3つの内のどれかが得られるのか、まず1つ目はいらんな、モンスター簡単に倒せるし、三つ目はひかれるものがあるがどうせ良いアイテムは手に入らないだろうし、とすれば2つ目かな？解析って事はアイテムの効力とか、わかりそうだな、それに、なにより優先すべきものは情報だろう、せつかく手に入れたアイテムも使い道がわからないと、意味ないし、よし、これに決めた、手に入る能力を決めたことを意識するとまた音声が入る中に響いた。

【ピロリン、シロウは【解析】の能力を手に入れた。】

能力を手に入れ終わると、目の前に微妙に光る魔方陣がでてきた。これに乗れば次の階層に進めるという事だろう。

先に進む前に、ミニバッグの能力が気になるから解析を使ってみよう。

ジッと、ミニバッグを見る、これで使い方はあつてると、思う…、しばらく見つめてると情報が頭に浮かんで来た。

【【無限のポーチ】いくらでも、無限に物が入る、入ったものは亜空間に保存され劣化しない】

おおっ、これは便利なものを手に入れたぞ、ようはドラちゃんのポケットみたいなものか、今まで持ちきれなくて放置していたものをコイツに入れられるし、なにより劣化しないっていうのは大きいなあ。

ためしにポケットにあった、パンを入れてみる。

明らかにパンの方が、ポーチの口より大きいが入るような気がする。

る。

パンをポーチの入り口に近づけていくと、グニヨンと入り口が延びてパンがスツと吸い込まれた。

取り出すときはどうするんだろ？

手を入りに近づけると、グニヨンと入り口がのびて、パンがするすると出てきた。

おお！こいつは、かなり便利だぞーあたりを引いたな！

とりあえず、持ってるアイテムを全部ポーチにぶっ込んだ。

これでよし！次の階層に進もう！

魔方陣に乗ると、一瞬、体全体が輝き、次の瞬間には別の場所に入った。

着いた場所は4畳くらいの空間で、左手にドア、前方に魔方陣があった。

この魔方陣に乗ると元の場所に戻れそうだな、乗ってみるか。

前方の魔方陣に乗ると、次の瞬間には見覚えのある場所、ゲートキパーを倒した場所にでた。

もっかい、ボス部屋の転移魔方陣に乗る。

さっきの4畳間に出た。

とりあえず階層を進んでも戻れる事が判明した、安心設計だな。

次に左手のドアを開けて外に出てみる、すると1番最初いた拠点部屋と同じような場所にでた。

トイレ付き、風呂付、キッチン付きの煉瓦部屋、違うのは今出てきた転移部屋が追加されている事くらいか…。

ああ、あと調理器具の類がおいてない…、最初の部屋からもってこないとなあ。

というわけで、最初の部屋から調理器具を持ってきた、【無限のポ

「チ」があるから楽だった。

それじゃあ、二つ目の階層の探索と行きますか！

毎度のごとくふらふらと出歩く。

2階層目には緑の奴の中に、ちらほらと赤い奴が見かけられた。

ふと、思いついて解析を使ってみる。

ジーツ

緑の奴は【養殖人間ようしょくじんげん】というらしい、こいつらが養殖だとすると、俺は天然人間になるのだろうか？

まあ、そんなことは置いといて、【解析】の能力は相手のステータスも確認できるようだ。

緑の奴のステータスは

LV	1
HP	100
MP	10
ST	10
STR	100
VIT	10
DEX	10
AGI	10
INT	10
RES	10

こんな、感じだった。

固体によって多少能力が違うが、平均するところなる。

んで赤い奴の方かというと、名前は【よつしやくにんげん養殖人間・あしゆ亜種】でステータスは

LV	1
HP	120
MP	10
ST	10
STR	120
VIT	10
DEX	10
AGI	10
INT	10
RES	10

って感じだった。

俺のステータスと比べるとダイブ低い、メツチャ弱い、だから楽勝だったのか。

まあ、弱いとわかったら遠慮はいらねえ毎度のようにザクザク行きますか！

ザック ザック ザック endless

赤い奴も何十匹と倒すとアイテムをドロップした、赤い奴のドロップアイテムはトレットペーパーとかティッシュペーパーとか生活雑貨だった。

今日の成果

LV5 LV7

NAME シロウ

LV 7

HP 128

MP 150

ST 130

STR 162

VIT 167

DEX 131

AGI 174

INT 177

RES 135

生活雑貨多数、食料多数ゲット。

ある程度探索と、赤い奴狩りを終えたので、今日は探索を終えて風呂に入ってめし食って寝る事にした。

おやすみなさい。

4話目っぽい(後書き)

投稿して改めてわかる、自分の文章力のなさ
精進せねば！

5 話目っばい(前書き)

モンスター解析時のステータスを変更しました。

思いつきで書いてるので、後から、ちよくちよく細かいところを変更したりします。

5 話目っぱい

今日も今日とて探索じゃあ！

と、モンスターを倒しつつ探索を続行すると、また雰囲気の違い部屋に出た、通称ボス部屋（俺命名）
中央にいるのは、青い奴だ。

解析、解析。

【養殖人間・変種】

L V	3
H P	1 2 3
M P	1 1
S T	2 3
S T R	1 2 3
V I T	1 1
D E X	2 2
A G I	2 2
I N T	2 0
R E S	1 2

こいつも雑魚だな、サクッと殺っちまうか！

サクツと殺つちやいました、横薙ぎ一閃です。そしてまた、脳内にピコーンと音声響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしか…、最初のは初回ボーナスみたいなものだったのかな？

能力が得られるだけでも大きいし、問題ないけどね。

今回得られる能力は

【戦士の才能】

【共通語/会話・読み書き】

【ドロップ率UP】

という、ラインナップだ。

ん、この中だと…、とりあえず、上の二つはないなあ、【戦士の才能】は前回と同じ理由でなしだし、会話は話す相手がいない。

ここは、【ドロップ率UP】にするしかないかあ。

というわけで【ドロップ率UP】の能力をゲットする事にした。

【ピロリン、シロウは【ドロップ率UP】の能力を手に入れた。】

魔方阵に乗って次の階層に行く。

前回とおなじく4畳間にでた、左手にドア、右手にはエレベーターのつばいもの、前方には魔方陣。
エレベーターつばいものが、新しく追加された施設かな？

ジーツ

と見て、【解析】を発動する。

ふむふむ、どうやら、行きたい階層の番号を入れて、ボタンを押すとその階層の拠点部屋に連れてってくれるものようだ。

ただし、自分が行った事のある階層にしか行けないし、この階層より前の階層にはいけないらしい、と、言う事は必然的に今は使えない代物しなものだな。

まあ、入力しなければならぬ数値がアラビア数字じゃないから、どっちみち使えないがな！

先の階層に進んでいけば、使う機会もあるかもなあ、次の能力取得では共通語の取得を考えたほうがいいのかもれない。

部屋に入るといつこ前の階層同様の部屋だった、ついでに調理器具の類がない、取りに行かねば…。

赤い奴や緑の奴をぬつ殺しつつ、調理器具をとりに戻る。

【ドロップ率UP】の恩恵か、倒せば必ずアイテムを落とすようになった、こいつらの落とすものは腐るほどもってるし、あんまりいらぬけど。

さて、3階層目をかろく探索して今日の探索はおしまいにするか…。

という事で毎度のごとくフラフラと出歩く、3階層目には、青い奴、赤い奴、緑の奴と3色の養殖人間が出てきた。

どうも、ボス部屋にいた奴が次の階層から通常モンスターとして出

てくるみたいだな・・・。

とりあえず、青い奴が何を落とすか知りたいな…、2階層目のボスだった、【養殖人間・変種】はアイテムをドロップしなかったし、ボスはアイテムを落とさない仕様なのだろうか。

というわけで、青い奴をぬつ殺した結果ドロップアイテムが服の類だと判明した。

シャツとかパンツとか下着の類も落とした、そしてサイズは何故かジャストフィットだった。

倒した人間のサイズになるのだろうか？まあ、何にせよありがたい事だ、ありがたい事だから深く考えない事にした。

それにしても、これでやっと着替えられる、今までずっと同じ服で過ごしていたよ、バツチイ。

今着ている服は風呂場で洗濯しておこう、本当はお日様の下で乾かしたいんだけど、ここじゃ無理だし部屋干しするしかないか…、部屋干しするとちょっと臭ツたりすんだよなあ。

orz。

風呂入って、シャツとパンツを着替えて、身も心も衣もサツパリした今日は、ぐっすり眠れた、いつもぐっすり寝ているような気がするが。

6話目っぱい

んっ、いい朝だ！

今日で異世界に飛ばされてから…5日目だな…、たぶん…、早くも曜日の感覚がなくなってきたぞ。

そっぴゃあ、元の世界で俺はどういう扱いになってるんだろ？ 搜索願いとかが出されてるんだらうか？

親父とお袋は心配だが…、まあ、まだ元気だったし、姉ちゃんもいるし、俺の貯金も結構あったし、そいつを使えば老後の生活は問題ないだろ、うん。

ああ、やめやめ、こんなん考えても、何にもならん、忘れる忘れる、はい！ 忘れた！。

とりあえず、今日は服の洗濯してから、探索に向かうかな…。

メシを食った後に昨日の残り湯で服を洗う、別にガス水道代を払ってるわけじゃないので普通にお湯をだしてもいいんだけど、勿体無いじゃん？

んで、洗った後に服をよくしぼる、その絞った服はいったん置いておいて、煉瓦の隙間にナイフを刺して固定する、コイツを二箇所つくってそのふたつのナイフの柄にヒモを結んでピーンと張る。

そのヒモに服を干す、なんでこんな事をしているかというところ、こうしないと服を干す場所がないのだ、赤い奴が物干し竿とか洗濯バサミとかはドロップしてくれたんだけど、流石に物干し竿置く台まで

はドロップしてくれなかったのだよ。
まあ、とりあえず、そうやって服を干す、干してる場所はベッドルームだ。

どうせ、ベッドルームは夜寝るときまで使わないので、昼にパンツが上のほうでピラピラしても気にならない、メシはキッチンのほうで食うし。

んで、洗濯したスーツに変わって、【ようじょくにんげん養殖人間・へんしゆ変種】（通称青い奴）が落とした服に着替える。

着替えた服は上は綿シャツ+厚手の綿のジャケット、下はこれまた厚手のズボンで色はグレー、生地はデニムっぽい、足は膝元まである黒い革のブーツ、一言で言うところ冒険者ルック？

前のスーツより若干動きづらいが、多少の事では破れない丈夫さに安心感がある。

さて服も着替えて心機一転、探索じゃあ！心機一転してるのにやることはいつもと同じだがなあ！

青い奴やら赤い奴やら緑な奴やら、うじゃうじゃいる。

こいつらを、毎度のごとくザクザク倒しどっちゃりと服やら生活用品やら食料やらを手に入れ、一旦拠点に帰ってメシを食う。

LVも8に上がった。

NAME シロウ

LV 8

HP 129

MP 152

ST 132

STR 163

VIT	1	6	8
DEX	1	3	3
AGI	1	7	6
INT	1	7	8
RES	1	3	5

昼メシを食った後また探索を続ける。

またまた、どつちやりとアイテムを稼げたが、ボス部屋は見つからなかった。

家に帰ってきて、干した洗濯物を取り込む、綺麗にたたんで【無限のポーチ】にしまう。

替えの服は大量にあるから、服は洗濯しないで、一回使うごとに捨ててもいいかなあという気もするが、やっぱり勿体無いのでちゃんと洗う事にする。

さて、今日は風呂入って、メシを食って寝るか…。

7話目っばい

6日目！

今日も今日とて探索じゃあ！

一連の行動、起きる メシ 洗濯、をした^{のち}後、フラフラと出かける。しばらくモンスターをやっつけながら歩いているとボス部屋にたどり着いた。

部屋の中央には黒い奴が佇んでいた。

漆黒の体に赤い瞳、金色^{いんじき}の髪と…ってな感じで、表現すると強そうに見えるんだけどなあ…、たぶん、コイツも…。

まあ解析をかけてみるとわかるだろ…。

【養殖人間・希少種】

LV	4
HP	133
MP	21
ST	24
STR	128
VIT	23
DEX	21
AGI	22
INT	20
RES	20

んぐ、予想通りの低ステータス、まあ、他の【養殖人間ようしよくにんげん】と比べたらかなり強いけど。
とりあえず、何も考えずに近づいて行って、剣を振り上げ振り下ろす。

「メーン！」

剣道の真似をして、頭から真つ直ぐに一閃、唐竹割だ、モンスターに反撃の暇も与えず葬り去った。
例のごとく頭にピコーンと音声が響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回得られる能力は…

【レアドロップ率UP】

【共通語／会話・読み書き】

【盗賊の才能】

この三つが…、しつこく出ていた【戦士の才能】がなくなっ
たな。

代わりに【盗賊の才能】と【レアドロップ率UP】が
入ってきたみたいだけど、選べる能力はランダムで決定しているの
だろうか？まあ、そんな事より取得する才能を決めなきゃだな。
ここはエレベーターを使えるようにするために、【共通語／会話・

読み書き】を取得するべきだろうか…。

だが…、【レアドロップ率UP】に惹かれる、すごく惹かれる。

うん、ぶつしよつか…。

…

…

…

…いいや！これにしちやえーい！

【ピロリン、シロウは【レアドロップ率UP】の能力を手に入れた。】

うひひ【レアドロップ率UP】ゲッター。

よしっ、次の階層に進むぞ！

例のごとく魔方陣にのり、4畳間にでる。

構造は下の部屋と一緒に、左手の部屋から出て部屋を見渡す、今回は何が増えたかな？と思っていると、部屋の隅っこにドアが1つ追加されているのを見つけた。

そのドアを開けて入ってみると8畳程の空間があつて、正面にデーンと銀行とかに置いてあるキャッシュディスプレイのようなものがあった。

とりあえず、見ただけでは用途がわからない、キャッシュディスプレイ

ンサーではないと思う、取り出し口っぽいものがやけにでかいし…。

悩んだときの為の便利スキル、【解析】を使ってみる。

どうやら、自動販売機っぽいものらしい。

アイテムの名前を入力して、代金を入れるとそのアイテムが手に入る、逆にアイテムの買取もしてくれるらしい。

ただ…、入力する文字とかが俺の知らない言語…、たぶんこの世界の共通語なので俺には使えねえ！

次は絶対、共通語を取得しなければ…、ギュツとこぶしを握って決意を固める。

まあ、それは置いて下の拠点に鍋とかフライパンとか取りに行くか…、洗濯物も干しっぱなしだったなあ。

途中、モンスターをザクザク斬りながら進んでいると緑の奴がアイテムを二つ落とした。

1つはいつも落とす萎びた野菜、もう一つは…たんぽぽのような花？葉っぱと茎の部分たんぽぽによく似ている。

ただ、花の部分が胡桃みたいになっている、固そう。

よくわからないがこれがレアアイテムかな？使い道がわからないので【解析】を使う、まじで便利だなこのスキル…、取得してよかった。

名前は【チョコポポ草】というらしい、胡桃っぽい花の部分を割ると中に、甘い実が入っているそう。

さっそく、割ってみる。

ふわつと香るカカオの香り、見た目こげ茶のまあるい物体。

…これは、もしかして…。

口に含んで舌で転がす、まあるい物体が口の中で甘くとけだす、この鼻に抜ける独特の香ばしくも甘い香りと、舌に広がる仄かな苦味と強烈な甘みは…。

間違いないない、こいつはチョコレートだ！チョコの部分なめていると中にはカリカリとしたアーモンドが…、いや、実際にはアーモンドじゃないんだろうけど、アーモンドが入っていた。

香ばしい香りを楽しみながらカリカリとアーモンドを噛み砕く、食べ終わった後は、なんだか幸せな気分になった。

あー、おいしかった、久しぶりの甘味だしなあ。

前の世界じゃいつでも食べたけど、コツチの世界じゃレアアイテム扱いなんだなあ【レアドロップ率UP】とって良かった。

そのまま、拠点部屋で鍋とかフライパンとか洗濯ものを回収し（洗濯物は乾いていた）上の拠点部屋に帰る。

途中で、また1個【チョコポポ草】をゲットできた、うまあー。

ああ、ついでに言うとか青い奴のレアドロップは剣だった、んで赤い奴は、魔法の力で光るペンライトを落とした。

さて、ボスを三回倒して3階層進んだわけだから、最初の階層が1階層だとして、今は4階層の拠点部屋にいるわけだな。

とりあえず、昼飯を食った後に、この4階層目の探索を開始すると思いますか。

フラフラと探索をしつつ、途中で見かけた黒い奴を倒すと、コインの様なもの落とした、これが黒い奴の通常ドロップ品だな。使用用途がよくわからないので、【解析 】【を使う。

…お金だ。

コインは単純にお金だった。

このコインは1000グラムコインらしい。

うむ、1000グラム（以降グラムをCRMと表記します）の価値がよくわからないが…。

自販機でアイテムの売買が出来るようになれば、価値もわかるようになるだろう。

その後も、探索を続け切りのいいところで、引き上げる事にした。

黒い奴からコインを大量にゲット、あと、青い奴から防具の【ブレストアーマー】をゲット、赤い奴からジツポライターの的なものをゲット、正式名称【チャツカ】マジックアイテムで魔法の力で火を出すらしい、まあ、所詮ライター程度の火なので武器にはならないんだけど。

後、緑の奴がおいしそうなお肉を落とした。

名前は【ラウム肉】、夕飯が楽しみだな。

LVも9に上がった。

NAME シロウ

LV 9

HP 131

MP	153
ST	134
STR	165
VIT	168
DEX	135
AGI	178
INT	180
RES	136

その日の夕飯はとてもおいしかった。

まるでラム肉からさらに臭みをとったような味わいで、ひと噛み事にあふれる肉汁、柔らかくて蕩ける様な舌触り、文句なく絶品だった。

ここにきて、俺的、緑モンスター株は急上昇である、よくやっつた。

ふう…、うまい飯も食べたし何だか幸せな気分だ。

明日もうまいメシのために頑張るぞー！

というわけで、おやすみなさい。

8話目っぽい

今日も今日とて探索じゃあ！というわけで、フラフラ出歩く。

モンスターを倒しながらあっちこっちへ進んでいったが、ボス部屋は見つからず、スゴスゴと拠点部屋に戻ってくる。

コインとか、武器とか防具とかマジックアイテムとか手に入れたが、まあ、それはどでもいい。

そ・れ・よ・り・も！

緑の奴がコメと醤油を落とすのだ。

日本人の魂^{ソウル}フード、コメと醤油を！コメと醤油を！大事な事だから2回いいました！

ふう…

今日の昼飯はイイものになりそうだ。

電気炊飯器がないので、ナベを使ってコメを炊く事にする。

正直、電気炊飯器以外でご飯を炊いた事がないので、うまくいくか心配だが仕方ない。

おかずは、萎びた野菜を使っておひたしを作ることにする。

しばらく待って、ご飯が炊けたように見えるのでナベの蓋をとって、ご飯をよそつ。

お粥みたいになつてた、水の分量を間違えたか…orz。

おひたしをおかずにお粥をすする。

ちよつと失敗、テンションが下がる、おかずも鮭の塩焼きとかほしいなあ。

メシも食つたし、午後の探索に行くかぁー、という所で、ふと自分を解析できないか気になった。

なんか、スゴイ今更感があるが…。

レベルとか数値のステータスは解析かけなくても見れるけど、解析すれば俺の種族とか確認できるかもだし、見てみよう。

洗面所の鏡に自分を映して見る、視線が通つてないと解析はできないもので…。

まず種族は…【ヒューマン・スカラー・異界種^{いかいしゆ}】

ふむふむ、たぶん【人間】＝【ヒューマン】という事なんだろう。

で、スカラーってのはなんだ？よくわかんないな？

スカラー スカラー スカラー…もしかして【scholar】か？

学者、もしくは、学生つて意味だよな…。

俺はもう学生じゃないし…、学者つてイメージ的に俺とはかけ離れてる気がするが…、まあいいか。

んで、異界種つてのは俺が異世界人だからだな。

ふむ、ん？所持能力も見れるようだな、どれどれ

【方向感覚】 1度行った事がある場所なら、迷わずにたどり着ける。

【結界無効】 ありとあらゆる結界を存在しないものとして扱う事ができる。

【解析】 モンスターやアイテム等の能力や効力を知る事ができる。

【ドロップ率UP】 モンスターがアイテムを落とす確率を1千倍にする。

【レアドロップ率UP】 モンスターがレアアイテムを落とす確率を1千倍にする。

ふむ、能力の詳細がわかるのは有難いな。

あと、見慣れない能力があるけど、これは俺が元からもっていた能力と考えていいのかな？

【方向感覚】 って、そっぴや今までマッピングとか全然してないけど一度も道に迷わなかったな！

よし、自分の能力もわかった事だし、探索を開始しますか…。

今日中にボス部屋までたどり着きたいなあ。

というわけで、ボス部屋を探してうるつきまわる、俺。

途中緑の奴が【アラマキ・ジャケ】っていうアイテムを落とすした。

うん、その名のとりの奴です。

今日もうまい晩御飯が食べれそうだ！それとも、あしたの朝飯用に

取っておいたほうがいいのかな？

んで、ボス部屋までたどり着いたんだが。

部屋の中央に今までとは見た目が大分違うモンスターが立っていた。
【養殖人間】と同じ人型なんだけど、まず大きさが違う、身長が3mくらいある。

腕が太くて臂力があるのを見て取れる、強そう。

体は木で出来ているようだが、貧弱な感じは受けず何百年と生きた巨木のような威圧感がある。

あと、顔の鼻の部分にあたる場所から枝がびよこんと出ていて、葉っぱがついてるのがムカつく、チャームポイントのつもりか！

とりあえず、近づく前に【解析】を使ってみる。

【ウッドゴーレム】

LV	5
HP	350
MP	61
ST	122
STR	285
VIT	189
DEX	105
AGI	23
INT	61
RES	62

「ブーッ！」

ステータス高すぎじゃね？

【養殖人間】と比べたら段違いに強いぞ！？

あれ？でも俺と比べたらそうでもないか？イケルか？

俺のステータス

N A M E	シロウ
L V	9
H P	131
M P	153
S T	134
S T R	165
V I T	168
D E X	135
A G I	178
I N T	180
R E S	136

うむ、試しに闘ってみて駄目だったら逃げよう。

9 話目っばい

ボス部屋に突っ込み【ウッドゴーレム】に一撃をくらわす。

ガッ！

と、音がして剣が【ウッドゴーレム】の胸部に食い込むが、ほとんど斬れない。

というか、剣が引つかかって抜けない。

【ウッドゴーレム】が、剣を引き抜こうとしている俺を潰しにかかってきたので、あわてて剣から手を離し、パツ！と飛び退り距離をとる。

体には剣が食い込んだままだが、気にも留めずに動いている、こいつには、痛覚とかは無さそうだな。

新しく【無限のポーチ】から剣を取り出し、再度斬りかかる、今度は俺から見て右側になる【ウッドゴーレム】の左足を狙う。

こちらも ガッ！ と音がして剣が浅く食い込むが、たいしたダメージにはなっていない。

まあ、簡単に引き抜けるように、弱めに斬りつけてるのでしょうかがないだろう。

それにしても、木って奴は意外と堅いんだよなあ、まあ、刃が通るだけかもしれませんが。

「おっと！」

【ウッドゴーレム】が回転しながら、右腕で俺を殴りつけてきた。間一髪、拳をかわすと【ウッドゴーレム】の拳が地面を抉った。

【ウッドゴーレム】の拳を中心に直径1m程のミニクレーターが出来上がる。

うわぁ、仮にも煉瓦で出来た地面をこんだだけ決るなんて、なんちゅう馬鹿力だよ。

これは、一発でも喰らったらあの世逝きだな。と、コイツ…、今の攻撃でバランス崩してる。

【ウッドゴーレム】がバランスを崩している内にすると近づき再度左足を斬りつける。

動きを観察した結果、コイツの効き足は左足と見た。

それからは、ずうううううううと、執拗に左足を狙っていく。

ふふふ、なんどもチクチク、チクチク、同じ場所を攻撃して、足をぶっ壊してやろう。

左肘鉄をかわし、斬りつける、右の回転ブローをかわし斬りつける、みぎこぶし右拳の裏拳をかわし斬りつける。

俺は常に【ウッドゴーレム】の左のお尻側に位置するように動くため、俺を攻撃するには左足を使って回転しなければならぬ。

右拳による裏拳なら右足を軸に出来るが、それだと俺を視認できないため、攻撃があたらないうえに、俺が何処にいるかわからなくなるので、多用はできない。

よって、左足を軸にして動かざるを得ない、ふはは、どうだ？うざかるう？。

そうして、地味にダメージを蓄積していった結果。

【ウッドゴーレム】の足は、ぼっきり折れた。

ここまで、1時間くらいかった。

一発でも喰らうと死のデスゲーム、俺もよく集中力がもったよ…。

さて、足がぼつきり折れたゴーレムくん、腕力はまだ健在なので油断すると危ないが。

体がデカイので死角も多い、体の可動域が少ないので、後ろには攻撃できないのは確認済み、だからさっきまで、クルクル回って攻撃してきていたのだろう。

背後からすると近づいて、剣から持ち替えた、斧で頭を叩き割る。

人型だし、たぶん頭が弱点だろう。

頭を壊しても、動くようならちとめんどくさいが粉々にするしかない。

と、まあ、そんな心配もなく頭部を破壊するとゴーレムは霞となって消えていった。

とりあえず、一撃も攻撃を喰らわずに倒せた、というと楽勝だったように聞こえるが。

こっちは一撃でもくらったら終わりだし【ウッドゴーレム】は意外と素早く何時攻撃をくらうかとヒヤヒヤものだった。

とりあえず、ボスを倒したので例のごとくあれがくるだろ…。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

ほいきた、今回はアイテムももらえるのか。

目の前にアイテムが三つある。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、かつこいい、勇者とかがもってそう。

2つ目、水晶で出来ている玉、野球のボールと同じくらいの大ささで綺麗な文様が刻まれている。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

栄養ドリンクが気になったので、それを取った。

取ってから気づいたが、先に【解析】を使っとけばよかった。後悔先に立たずで、手をつけなかった剣と水晶玉が霞となって消えてしまった。

まあ、いいか。

んで、もらえる能力は以下の三つだった。

【共通語／会話・読み書き】

【盗賊の才能】

【縫製の才能】

ここは迷わず【共通語／会話・読み書き】をとる。

【ピロリン、シロウは【共通語／会話・読み書き】を習得した。】

そして、また、例のごとく次の階層へと進む。

拠点部屋に今回は何が追加されたかなあ？と見ると一目でわかる変化が起こっていた。

ベッドルームの壁の一角がガラス戸に変化している。

ガラガラあつと、戸を開けるとベランダが…。

洗濯物をお日様の下で干したいという願いが通じたのだろうか？

ベランダに出て上をみると雲ひとつない空に燦々と輝く太陽が…。

下を見ると延々と続く真っ暗で何も無い空間が…。

試しに【無限のポーチ】から剣を一本取り出し落としてみる。

ヒューーーーーー

ーッ。

…

…

…

あれ？音がしない…、地面にぶつかった音がしないよ？

たぶん、底なしなんだな、ナニソレ怖い。

これも、深く考えたら負けな気がする。

とりあえず、増えた施設も確認できたし、今度は外に出てみよう。

【ウッドゴーレム】がうじゃうじゃいるようなら、ここでの狩りは一旦あきらめて、前の階層でレベルUPなりしてから再挑戦する事になりそうだ。

あんなの複数相手に戦えん！前後で挟まれたら前の奴に気を取られてるうちに後ろから殴られて、ゲームオーバーだ！

ん？でも、あの大きさだと通路は通れないだろうしうまくすれば1対1に持ち込めるか？

まあ、とりあえず、ドアを開けて、外に出てみる。

…ドアの外はこれまでの階層とはだいぶ趣が変わっていた。

一言で言うところ洞窟、それも鍾乳石とかがある自然の洞窟みたい。

しかも、結構広い【ウッドゴーレム】くらいのデカさでも余裕で動き回れるくらいの広さだ。

そして、うじゃうじゃとではないが、ちらほらと【ウッドゴーレム】が見かけられる。

俺はスゴスゴと引き返して、前の階層でレベルUPに勤しむ事にした。

帰るときにドアを見ると、何も無い空間に浮かんでいて笑えた。

9 話目っぽい（後書き）

拳を中心に直径60cm程のミニクレーター 拳を中心に直径

1m程のミニクレーター

に修正

ゴーレムの拳は結構でかい設定なのでこれくらいはいくだろうと…

10話目っぽい

さて、そういえば前の部屋に生活用品とか置きっぱなしだったな、取ってこないと…。

うん、共通語を取得したわけだし、エレベーター（またの名を拠点移動装置）を使ってみようっと。

ふむ、ここは5階層でいつこ下が4階層か…、知らない文字が頭の中で再構成されて、わかるようになるっていうのは不思議な感覚だな。

とりあえず、4階層の拠点部屋から鍋とか生活用品を持ってくる。

生乾きの洗濯物もコッチに持ってきて干す、せつかくベランダがあるんだし…。

そして、自販機のほうも使ってみることにする。

『アイテムを売る』と入力して、パンを一個いれてみる。

パンは一個、5 c r m ^{グラム}で売れるらしい。

今度はパンを買ってみようとする、1個50 c r mするらしい。

今度は剣【ロングソード】を入れてみる、売値は1万3500 c r mで買値は13万5000 c r m…。

色々なアイテムで試して見た結果、売値は買値の10分の1になる事、嗜好品の類はかなり高額になる事がわかった、【チョコポポ】一個が1万 c r mとかする。

あと、生活用品とか食料の値段から換算するに、たぶん 1 c r m

＝ 1円 くらいの価値だろうというのがわかった。

この自販機はこれからかなり利用する事になるだろう、【チョコポ

ポ】とか【ラウム肉】とか買うために…じゅる。

ああ、そういえばさっき手に入れた栄養ビンに【解析】を使うのを忘れていたな、とりあえず効力を調べておくか…。
ふむふむ、名前は【ラストエリクシール】で、用は強力な回復薬つてところか。

ドリンク剤の様な見た目に反して、別に飲み薬つてわけではなく、手に持って念じるだけで効果が発揮されるらしい、死んでさえなければ、足がもげようが、心臓が潰れていようがすぐさま再生されるそう。

まあ、そんな状況になど陥りたくはないが結構便利なアイテムだったわけだな、一回こっきりの使い捨てみたいだが。

まあ、色々わかったところで、レベル上げにいくかあ。

というわけで、4階層でモンスターを何体か倒しているとLVが上がった。

いつもどおり【ピロリロリロリン シロウはレベルが上がった】という音声がながれた後に、聞き捨てならない音声が入った。

【成長限界に達しました、これ以上はLVは上がりません】

えっ？ちよっ？まじで？もうこれ以上LVあがらないの？うそだよね？

LV10で限界って低くない？っていうか、今のままだと5階層の攻略がままならないんだけど。

NAME シロウ

LV 10

HP 131

R E S	I N T	A G I	D E X	V I T	S T R	S T	M P
1	1	1	1	1	1	1	1
3	8	8	3	6	6	3	5
7	2	0	6	9	6	6	4

） 一週間後 ）

まじで、L Vが上がらない、今までのL Vアップのペースを考える
とやっぱり、限界に達したと考えるべきだろうな。
5階層の攻略どうしよう？

ん〜、一対一で【ウッドゴーレム】倒せたんだし、うまくやれば問
題ないかな？

試しに行ってみるか！

∴この後、考えが甘かった事を思い知らされる事になるわけだが、
このときの俺はまだ何も知らなかった。

しばらくは、【ウッドゴーレム】を避けつつ探索をしていたが、そういつまでも避け続けられるわけではない。

どうしても、通りたい場所に【ウッドゴーレム】がいたために、攻撃をしかける事に…。

一度倒した事もあるし、周囲に他のモンスターがいなければ大丈夫だろうと持っていたのだが。

【ウッドゴーレム】と戦っている間に【養殖人間】ようじやくにんげんに背後に回りこまれていた。

正直、【ウッドゴーレム】を相手にするのにいっばいいいっばいで周囲の状況を確認している余裕がなかった。

背後から【養殖人間】ようじやくにんげんの一撃をくらう、今まで攻撃をくらったことがなかったのだからなかったが、【養殖人間】ようじやくにんげんの一撃はかなり痛い。

HPも30程持つて行かれた、俺の最大HPが131であることを考えればかなりのダメージだろう、とりあえずコイツを倒さなければ。

と、意識を【養殖人間】ようじやくにんげんに移したのがまずかった。

意識をはずした瞬間に【ウッドゴーレム】の一撃を肩口にくらってしまった。

咄嗟に体を捻り、衝撃を受け流したが、右腕は肩口からもげ、きりもみしながら5mほど後ろに吹っ飛び壁に叩きつけられた。

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ

右腕は千切れ、肋骨は折れ、内臓は潰れ、口から血を吐き出す。

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ

脳が悲鳴を上げ痛みを拒絶するために意識を遮断しようとする。

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ
イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ

まずい、気絶はマズイ、早く回復を、痛みをやわらげないと、意識を失えばそこに待つの、死だ。

必死にまだ動く左手を使い【ラストエリクシル】を取り出し、回復しると念じる。

すると、体の傷が癒え、千切れ飛んだ右腕も再生する。

ついでに、治療が終わっている詰め物をした歯も部位の欠損とみなされたのか、新しい歯が生えてきた。

まあ、そんなことはどうでもいい、俺は即座にその場から逃げ出した。

幸い【ウッドゴーレム】は足が遅い、俺が全力疾走すれば追いつけはしないだろう。

拠点部屋に戻り扉を閉めた後にその場で崩れ落ちる。

ゴーレム怖い、ゴーレム怖い、ゴーレム怖い【ラストエリクシル】
がなければ確実に死んでたよ、あの時、栄養ドリンクのピンを選ん
でおいで良かったあ。

自分の悪運に感謝しつつも、もう二度と5階層に行かないと決意し

た。

もう、先に進むとかどうでもいい。

この4階層でもうまいメシは食べるし生きていくには困らないしずっとここで暮らしていけばいいじゃないか。

こうして、俺の冒険は終わりを迎えた。

俺はこれからもモンスターを倒しつつ生きていくだろう。

だが、この階層から進む事は、もうない…。

俺の冒険は終わったんだ…。

おしまい

おわりません、まだ続きます。

10話目っぽい(後書き)

流石に、こんな少年誌の打ち切りのような終わり方はしませんです。でも、ここで更新が滞ったりしたら、終わったんだと勘違いされそう。

はやく、続きを書かなければ。

1-1 話目っぽい(前書き)

時間をばして結果だけが残った。

11話目っぽい

続き！

） あれから数十年の時間が過ぎた ）

ついに、俺はゴーレムにリベンジする時が来た、見よこのステータスを！

RES	INT	AGI	DEX	VIT	STR	ST	MP	HP	LV	NAME
579	726	690	561	509	549	561	681	514	95	シロウ

え？

LV10で成長の限界に達したんじゃないのだったのだったの？

フフフ、それがだよ、【養殖人間・希少種】が、極稀に成長限界を引き上げるアイテムをドロップするのだよ。

それは、もう凄く低い確率で…、だいたい10万体に1体くらいの割合だから確立にして0.0001%だな。

まあ、そうして成長限界を引き上げつつ、このLVまでレベルUPを繰り返えし続けたのだ、ちなみに現在の俺の成長限界はLV120だ。

なんで、こんなLVになるまで、進まなかったのだったの？

だって、怖いんだもん、LV95になった今でさえ、【ウッドゴーレム】と戦うと思うと、ガクブルですよ…。

だが、今日こそ、5階層に繰り出すと決めたんだけだ。

頬を叩いて気合を入れる、鏡を見て身だしなみを整える、べつ、別に時間稼ぎをしているわけじゃないぞっ！？

それにしても、鏡を見て思うんだが、此処に来てから全然年をとっていない、むしろ若返っているようにさえ見える。

もう、何十年もたっているはずなんだけどなあ。

理由はわからないが、ここはそういう場所なんだろうと思って深く考えない、これも深く考えたら負けな事象なんだろうな…。

年は取らないけど、髪は伸びてうざい長さになっている、流石に後ろの髪は肩口くらいまでで切りそろえているんだが、自分でできるのはそれくらいで。

今や俺の髪型は長髪オールバックになっている、短く刈り込むほう

が好みなんだけどなあ。
筋肉がついて、ガタイが良くなってることもあって、一見ヤク
さんに見える、怖い。

いつまでも、うだうだ考えていると、決心が鈍りそうなので、扉を
開けて外に出る。

緊張しながらも、しばらく歩いていると洞窟の奥に【ウッドゴーレ
ム】を見つけた。

剣を抜き、じりじりと近づいていく事にする。

今使ってる剣は【バスタードソード】という剣だ、刃渡り1・2m
程で柄が長く両手でも片手でも扱える便利な剣だ。

俺的にはもう少し重くてもいいんだけど、これ以上重い剣だと刃渡
り2mとかになって取り回しづらいのでこの剣をつかっている。

ある程度近づいたところで【ウッドゴーレム】がこちらに気づき向
かってきた。

ここは、自分の力を試すためにも正面から立ち向かう！

と、みせかけてスツと後ろに回りこむ、正面から立ち向かうの明
らかに実力差のある奴を相手にするときだけだ。

正面から立ち向かうなんて、馬鹿のすることですよ…。
っていうか【ウッドゴーレム】怖いし…。

そのまま左足に斬りつける。

ドガッ！ という音と共に【ウッドゴーレム】の足が吹っ飛んだ。

【ウッドゴーレム】が、バランスを失い後ろ向きに倒れこむ。

頭部がちょうどいい具合に降りてきたので、そのまま剣を頭めがけ
て振り下ろす、いわゆる兜割りだ。

俺の剣の一撃をうけた【ウッドゴーレム】の頭部は、パカッ と割

れて真っ二つになった。

【ウッドゴーレム】はそのまま霞となって消えていき、後には木片がひとつ残された。

【解析】をかけたみた、【魔法樹の木】というアイテムらしい、たぶん【ウッドゴーレム】のドロップアイテムなんだろう。

「フフフ、フハハハハッ！」

二撃！あれだけ恐れていた【ウッドゴーレム】がたった二撃で墜ちるとは！

圧倒的じゃないか我が軍は！軍などもっていないがな！

その後、テンションが上がってひゃっほい！状態の俺は見かけた【ウッドゴーレム】を片っ端から狩っていった。

【魔法樹の木片】を大量にゲットした。

12話目っぽい

翌日、小さいながらも確実な一步を踏み出した俺はさらに上の階層を目指す事にする。

今まで足踏みをしていた分、一気に駆け抜きたい！
というわけで、ボス部屋にたどり着いた。

目の前に居るのはドラゴンと犬を足して割ったような^{なまもの}生物だった。
犬から毛をとって変わりにウロコをはっ付けコウモリの羽をつけた
感じた。

その名も【ドッグドラゴン】…、見たまんまである。

ステータスは

L V	6
H P	1 3 0
M P	8 6
S T	9 0
S T R	9 9
V I T	6 6
D E X	1 4 8
A G I	1 3 7
I N T	6 5
R E S	1 0 5

と、あまり高くない、むしろ【ウッドゴーレム】のほづが高いと思
う。

なんだよコイツ【ウッドゴーレム】より先に出ろよ。

と、思いつつも、攻撃を開始する、…と、すぐに戦闘は終了した【
ウッドゴーレム】をも凌駕する今の俺の敵ではなかった。

火を吐いてきたのは驚いたが…、流石はドラゴンと言ったところか。
そいでもって、例のごとく音声が響いてきた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナ
スで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしで、能力は以下の三つから選べるようだ。

【魔法の才能】

【縫製の才能】

【盗賊の才能】

この中だと気になるのは【魔法の才能】かな？
というか、やっぱり魔法ってあるんだ。

俺は【魔法の才能】をゲットする。

せっかく【魔法の才能】を手に入れたので、試しに魔法を使
ってみようとしたが、魔法の使い方がわからない。

「ファイアーボール！」

「アイス！」

「ケル！」

「メガ テー！」

試しにに適当な魔法名を叫んでみるが、全然発動する気配がない。いや、最後のは発動したらヤバイが…。

なんてこった！才能があつても魔法に関する知識がないと使えないのか…。

ちよつと、シヨックを受けつつトボトボと次の階層へと進んだ。

拠点には地下室が追加されていた、階段を下りると広い部屋になっている。

窓がないのでちと暗い…、まあ、この部屋を使うことはないだろうから問題ないか。

前の拠点部屋から、生活用品を移して次の階層へ進む。

次の階層で【ドッグドラゴン】を倒し、【犬竜の鱗】けんりゅうのうろこというアイテムを手に入れた。

まがりなりにも竜なわけだし、鱗は防具の素材になるのだろうか？

そのまま探索を続行すると本日2度目のボス部屋にたどり着いた。

一日で二階層進むのは初じゃなかるうか。

ボスはいつこ下の階層にいた【ドッグドラゴン】の色違いで【ドッグドラゴン】が緑色なのに対して、今回は青色。

【ドッグドラゴン・亜種】あしゆとかだろうか、【解析】かいしをにかけてみる。

【ハイドッグドラゴン】

L V	7
H P	1 5 0
M P	1 0 6
S T	1 1 0

STR	110
VIT	67
DEX	152
AGI	158
INT	89
RES	127

名前は【ハイドッグドラゴン】か…、なるほど…、マンネリを嫌ったんですね？わかります。

どちらにせよ、このステータスなら俺の敵ではないな。

剣で一闪、【ハイドッグドラゴン】を倒す。

いつもどおりの音声の後に能力をゲットする、今回もアイテムは無し。

今回は【盗賊の才能】をゲットする。

トラップを見つけたたり、鍵を開けたり、トラップを解除したり、気配を消したり、聞き耳を立てたり、アイテムを盗んだりする才能だそうさ。

覚えておいて損はなさそうだと思う、この迷宮的なものには罠とか全然出てこないけど、これからも出ないとは限らない。

そのまま、次の階層に進み、拠点部屋の追加施設を確認する。

今回は、地下室にベランダが追加されていた、というか、ベランダがある時点でこの部屋はもう地下室じゃないな。

最初にあった部屋が2階でこの部屋が1階ということになるのだからか？

なににせよ窓が出来たおかげで、明かりが入ってきて居心地がよくなった。

まあ、この部屋使わないけど。

今日はこの辺で探索をやめ、続きは明日にする。

いつもどおり、風呂は行って飯食って寝た。

ちなみに、お金に余裕があるので、飯は毎日高級食材を使っている。

この数十年で自炊能力も上がったよ…。

おやすみなさい。

13 話目っぽい

さて、次の階層だ！

というわけで、7階層目に突入する。

モンスターを薙ぎ払いながらボス部屋を探して駆け回る。

このボスモンスターは「ゴブリン」だった、ファンタジー世界では定番のやられキャラだな。

ステータス

LV	8
HP	107
MP	65
ST	65
STR	108
VIT	84
DEX	83
AGI	62
INT	81
RES	65

今までのモンスターと違って武器をもっているが、予想に違わず雑魚だったのでサクッと倒して次の階層へ進む。

取得能力は「縫製の才能」に決定。

拠点の追加設備は、1階の部屋のベランダが庭へと変化していた事だった。

日本の狭いお庭と同程度の広さだが…。

そいでもって次階層へと進み、ボス部屋へと一気に突き進む。

ボスは【ゴブリン・ファイター】だ。

ステータス

LV	9
HP	128
MP	65
ST	66
STR	129
VIT	104
DEX	85
AGI	64
INT	71
RES	62

鈍と皮製の鎧を装備しているが、こいつもさして強くない、というか今の俺の力だと皮製の鎧ごとぶった切れる、サクッと倒して次へ進む。

取得能力は【錬金術の才能】

拠点の追加設備は、庭が広がっていた事だった。

大体、奥行き50m×横幅100mくらいの広さだと思う、凄く広くなつててびつくりした。

とりあえずそれは置いて次の階層へ進む。

ここも、ボス部屋までずんずん進む。

9階層目のボスは【ゴブリン・アーチャー】だった、ゴブリン3連続。

ステータス

LV	10
HP	85
MP	65
ST	65
STR	109
VIT	84
DEX	129
AGI	67
INT	99
RES	67

コイツの武器はアーチャーの名に違わず弓矢のようだ、【ゴブリン・アーチャー】に有利になるようにか、ボス部屋はかなり広い空間になっている。

【ゴブリン・アーチャー】が遠距離からびしびし矢を放^{はな}ってくる。一発目、二発目と、矢をかわしながら近づいていく、AGIが上がっている恩恵か今の俺には矢がスローモーションで飛んでくるように見える。

時には避け、時には剣で叩き落とし近づいていく、距離を詰められてしまえば【ゴブリン・アーチャー】に成すすべはない、サクッと【ゴブリン・アーチャー】を屠^{ほぐ}った。

能力は【鍛冶の才能】をゲットする。

拠点には1階の部屋のとなりにさらに部屋が追加されていた、40畳くらいあるでっかい部屋だった。

もっとも、俺が使うのは2階の部屋だけなんで宝の持ち腐れなんだが。

2階層下の拠点部屋から、生活用品を持ってきて、昼ごはんにする事にする。

昼ごはんはパンの耳を切らないことによって具をたくさん挟み込む事に成功した俺特性のサンドウィッチを食べながら、今日の予定を考える。

今日はもう、3階層も進んだわけだから、一旦探索を切り上げて武器や鎧の整備でもしようかな？

手に入れた能力の性能も気になるし…。

何気なく手に入れた【縫製の才能】 【錬金術の才能】

【鍛冶の才能】 の三つだが。

三つの才能だと面白い事ができるらしい、何でもMPを消費する事によって、工程をすっ飛ばしてアイテムの生成ができるそうなの。物理的に無理がくる事をやろうとすると、その分MPの消費も大きくなるが、逆に言えばMPさえあれば無茶な事ができるという事だ。その日の午後は探索をせずに、武器や防具の修復を行ったり、服を繕ったり、改造したりして過ごした。

【バスタードソード改】を手に入れた。

説明しよう！【バスタードソード改】とは、既存のバスタードソードに鋼を加えて打ち直し、強度と破壊力の向上を図ったものだ。その分、重量が増してしまったが、今までの重量では物足りなかった俺にとってはこっちの方が使いやすい。

14話目つばい

翌日！

今日は10階層の探索だ、二桁まで来れたぞ！

この階層から迷宮が洞窟から森に変更された。

森には鬱蒼うっそうと木が茂っている部分と、そうでない部分がある。

木が生えてない場所が部屋であり通路なんだろうと思われる、良く出来ている。

さて現在探索している10階層だが、出てくるモンスターは【ハイドッグドラゴン】 【ゴブリン】 【ゴブリン・ファイター】 【ゴブリン・アーチャー】の4体で、LVは大体5〜10程度だ。

どうやらその階層の数値が出てくるモンスターの最高レベルになって、今の階層から3階層下のモンスターまでが出てくる仕様になっているようだ。

それとモンスターの【ゴブリン】だが、武器を使ってるわけだから俺的には、ある程度の知性があるんじゃないかと疑ってたんだが。この迷宮の【ゴブリン】からは知性が感じられない、というかむしろ意思とか自我を感じる事ができない、俺を見たら無条件で襲い掛かる呪いでもかけられてるように感じられる。

まあ、その辺も気にしない方がいい類のものなんだろうが…、何にせよ、この迷宮には不自然な部分が多すぎる気がする。

まあ、今更か…。

とりあえず、ボス部屋へと突撃する！

今回のボスは【ゴブリン・メイジ】見た目はローブを着て杖をもった【ゴブリン】だな。

ステータスは

LV	11
HP	90
MP	132
ST	68
STR	85
VIT	62
DEX	87
AGI	69
INT	149
RES	109

こんな感じ。

杖をフリフリした後、なんかもにもよと言ったを思ったら、火の玉が飛んできた。

メイジの名前に違わず、魔法を使ってくるようだ。

とりあえず、かわそうと思って左にステップしたが追尾機能があったらしく、ちよつと掠ってしまった。

10ポイント程ダメージをくらった、掠った右腕がひりひりする。

二発目、またも杖をフリフリにもによした後に、火の玉をうつてくる。

今度は剣でスパーンと斬ってみることにする、なんか出来そうな気がしたので…。

結果は、剣ごと俺が火達磨になった、仮にも高レベルなのでちよつ

と焦げただけですんだが。

アン先生、剣で魔法は斬れないよ、海 斬とか実際にやろうとしても無理だという事がわかった。

三発目、四発目、十何発目と魔法をかわしながら、【ゴブリン・メイジ】の観察を続ける。

と、次弾を放とうとした【ゴブリン・メイジ】が急に魔法を取りやめた。

そして、杖を振りかぶりながら襲い掛かってきた。

どうやらMPが切れたようだ、もう少し魔法の使い方を観察したかったがしょうがない…、そのまま剣で一閃して返り討ちにする。

観察してわかったのは、見ただけじゃ魔法の使い方はわからないという事だけだった。

とりあえず、毎度のごとく能力を取得する。

取得能力は【料理の才能】

で、今回はレアアイテムもゲットできるらしい。

【解析】を使って、手に入れるアイテムを決める。

俺は3つあるアイテムの中から【従魔の宝珠】というアイテムを選んだ。

見た目は黒いこぶし大の水晶玉で、表と裏に對になるように金色の鉾がついている。

このアイテムは、投げつけてあてる事によってモンスターを自分の僕にできるらしい。

ふふふ、これで【ゴブリン・メイジ】を僕にして魔法を教えてください

うんだ！

喜び勇んで次の階層へと進む。

拠点部屋には1階の部屋の隣に、大理石製の大きな風呂が追加されていた。

香料の入ったいいにおいのするお湯が、こんこんと湧き出て湯船を満たしている。

随分と豪華なものが追加されたなあ、つい入り浸ってしまいそうだ。

とか、考えつつも【ゴ布林・メイジ】を僕しもへにするために次の階層の探索に出る。

しばらく歩いていると【ゴ布林・メイジ】を見つけた。

さっそく【従魔の宝玉】を投げつける、【ゴ布林・メイジ】君に決めた！ってそれは出す方が…。

【従魔の宝玉】は【ゴ布林・メイジ】の頭にあたった後、ゴトリと地面に落ちた。

これで、この【ゴ布林・メイジ】は俺の僕しもへになったのだろうか？

「やあやあ、今日から君の主人となるシロウだ、よろしく！」

とか言いつつ、さわやか風味に笑顔をふりまき、近づいていってみる。

と、【ゴ布林・メイジ】は魔法をぶっ放してきた、心なしか怒っているように感じる、頭にたんこぶできてるし、まあ、こいつら感情がないようなものだから俺の心情がそう見せてるだけだろうが。とりあえず、主にいきなり魔法をぶっ放したりしないだろう。

弱らせないと駄目とか条件があるのだろうか？

とりあえず、弱らせてから【従魔の宝玉】を使ってみるか…。
というわけで、弱らせるために、近づいていって剣を使わずに拳で殴る。

何発か手加減したパンチを入れたらグツタリしてきた。

なんか、酷いことをしている気になってきたが、かまわず【ゴブリン・メイジ】に【従魔の宝玉】を投げつける。

今回も玉は【ゴブリン・メイジ】にぶつかった後ゴトリと地面に落ちた。

グツタリしながらも、いまだに俺に襲い掛かってこようとしているから、僕にはな^{しもへ}ってないと思う。

やけになってグリグリと玉を押し付けてみたりしたが効果はなかった。

むう、何がいけなかったのだろうか？

【従魔の宝珠】に再度【解析】を使ってみる。

説明をよく確認していくと最後に『ただし、INTが50を超えるモンスターには効果がない』とあった。

…Ohuuuu

【従魔の宝珠】使えねえ！ってか僕に^{しもへ}できる条件満たすの【養殖人間】くらいしかないじゃねえか！

とりあえず、このグツタリしている可哀想な【ゴブリン・メイジ】を倒すことにする。

心情的にはこのまま、見逃してやりたいが、どうせ見逃そうとしても襲い掛かってくるだろうし。せめて、苦しまないように殺してあげよう…。

少々いたたまれない気持ちになりながらも、剣で斬り倒す。

【ゴブリン・メイジ】を倒した後には、杖と本が置かれていた。

本のタイトルは魔術入門書。

とりあえず、魔法を覚えるという目的は達せそうだが、なんだか身も蓋もないというか。

納得がいかないというか、何だかなあ…。

それと、この【従魔の宝珠】^{しもぐ}しまっておくか…、【養殖人間】じゃ僕にしても盾の代わりにもなりやしない。

今回はハズレを引いたなあ。

14話目っばい(後書き)

さて、役立たず認定された【従魔の宝珠】ですが、これが後に意外なところで役にたったりする伏線があったりなかったり。

次回は延々と魔法の説明が入ります。

読み飛ばしても話の筋はつながりますので、飛ばしていただいても問題ないかと。

ちなみに、藤袴はこういう説明は読み飛ばすタイプです。

15話目っぽい(前書き)

一日一話のペースが維持できなかった…

これから、更新ペースはちよっと落ちるかもしれないです。スミマ

セヌm) ————— (m

15話目っぽい

さて、一度拠点に戻ってきまして、魔術入門書を読むこと数時間。

魔法の使い方が、だいたい解ってきた。

なんだか、【魔法才能】が三つ以上のランクの場合、単純に具現化したい現象をイメージするだけでも使えるらしいが、以前に使えなかったのは、イメージの練り込みが足りなかったからみたいだ。

昨日、俺がやったMPを消費して行く、鍛冶や縫製と原理は一緒だそうで…、あれも三つ以上ランクがないと使えないし、イメージが明確じゃないとうまく練成できなかったしな。

で、【ゴブリン・メイジ】が行っていた杖をフリフリするのと、もによもによ言ってた奴だが。

三つ以上の【魔法才能】がない場合、魔法を使うのに一定の手順が必要になるそう。

まあ、鍛冶で武器を作るのに、鋼を熱して、ハンマーで叩いて、とかするのと一緒だな。

んで、その手順というのが、まず魔法の発動体を手に持って印を刻む、これは世界に今から魔法を使いますよー、と合図を送る行為になるそう。

合図を送らないと世界がびっくりして、魔法の発動に抵抗してしまっらしい。

発動体は、杖とか指輪とか色々あるらしい【ゴブリン・メイジ】が使っていたのは杖だな、後、ドロップアイテムの杖が発動体だった。開始する合図の印は、自分がこれは魔法の開始する合図だ！、と認識できればなんでもいいらしい、三拍子を刻むとか、指で円を描くとか。

ただし、印をほいほい替えると認識に齟齬が出て、うまく魔法が使えなくなる可能性があるので、一度決めたら替えないほうがいいらしい。

次に魔力を練りつつ、発動させる魔法のイメージか呪文式を込める、呪文式というのは俺の感覚だとプログラム言語みたいなものかな？

イメージで魔法を使うのは、絵で魔法という現象を表現するのに対して、呪文式を使うのは文章で表現する感じと云えばいいか。

文章は文言さえ覚えてしまえば誰でも寸分違わぬ物ができるけど、絵は描く人によって同じ物のつもりでも違うものができたりしてしまう。

まあ、そんな感じなものと思っていたら良かった。

最後に発声をして世界に魔法の発動を告知するらしい、これで魔法が発動するそうだ。

【魔法才能】を、持っている俺はこの手続きをすつ飛ばせる。

魔力を練りつつ、明確な魔法のイメージを作って発動しろ！と念じ

るか、呪文式だけ魔力にこめて打ち放つだけでもいい。

ただ、手順をすっ飛ばす分、MPは余分にかかるし威力も少なめになっちゃうらしいが。

本によるとイメージで魔法を使うより、呪文式を使うほうが主流らしい、理由はイメージのみだと発動に時間がかかるからのと成功率が低いからだ。

明確なイメージを思い起こすのは訓練しても結構時間がかかる。

それなら最初から呪文式を覚えるほうが手っ取り早い、応用力はイメージの方が上なんだが、呪文式は結構なバリエーションがあるのでわざわざイメージ魔法を使う意味がないそう。

とりあえず、入門書には基本的な魔法の呪文式が載っていたのでコイツを使ってみようと思う。

拠点部屋にある馬鹿でかい庭で試してみることにした。

とりあえず作法に則った、方法で使うことにする。

まずは基礎の基礎、【フレームアロー】

読んで字のごとく、炎ほのおで出来た矢が前方に飛んでいくそう。

杖を持って、印はペンタグラムを刻む、魔法といたらこれだろう、んで、呪文式を打ち込んで、発動用の言葉は

「顕現せよ！フレームアロー！」

シンプルイズベストだと思う、長いと大変だし…、魔法名はつい叫んでしまった。

んで、俺の使った【フレイムアロー】はというと…、矢というより槍というかむしる砲弾？てな感じのものだった。

直径30cm、長さ2mほどある炎の塊が前方に凄いスピードで飛んでった。

次に【ファイアウエポン】

武器に炎の加護を与えダメージを引き上げるそうなので、試しに使ってみると剣が燃えた。

刀身が駄目にならないか心配になったが大丈夫みたいだ、不思議だし…。

次は【ヒール】

RPGには定番の回復魔法に相当する、パーティーに必ず一人は使える人を入れときたい魔法。

HPを回復し、傷もちょこっとだけ直すらしい。

使ってみた所、HPが回復し、やけどの痕も治った。

うーん、便利魔法だな。

他にも色々あるみたいが、あとで試そう。

16話目っぽい

とりあえず、右手に剣を持ち、左手に杖を持った状態で実践で多用することになるであろう【フレイムアロー】を使ってみる。

杖をフリフリ

「顕現せよ！フレイムアロー！」

杖をフリフリ

「顕現せよ！フレイムアロー！」

杖をフリフリ

「顕現せよ！フレイムアロー！」

3回繰り返す。

うーん、剣を持った状態だと杖が邪魔だな、魔法だけで戦うならいいけど、一人パーティーの俺じゃそれは無理だし、指輪型の発動体を【ゴブリン・メイジ】が落とさないかな？

とりあえず、【ゴブリン・メイジ】を狩りに11階層に行ってみるか。

ザクザクと【ゴブリン・メイジ】を倒していくと、杖はポコポコ落としてくれるんだが指輪タイプの発動体は落としてくれない。杖と一括りにしてはいるが色んな種類の杖を落としている、だが、やっぱり杖以外の発動体は落としてくれない。ちなみにレアドロップは魔道書のようで、いくつか新しい魔道書を落としてくれた、なかには被ってしまった物があるがそれは自販機で売ろうと思う。

本は同じものを持ってても意味がないしなあ。

〜数時間後〜

ついに手持ちの杖の数が百を超えてしまった。

これは【ゴブリン・メイジ】は杖以外落とさないんじゃないかと思う。

ドロップしないなら、作ってしまえばいいじゃない！というわけで杖を改造して、使い勝手のいい魔法の発動体を作ってみるか…。

一旦拠点に戻り、下のおつきな部屋で改造作業をやってみる事にする。

ごそごそと【無限のポーチ】をあさり、改造するのに手ごろな杖を探してみる。

【プラチナムタクト】プラチナ製で見た目は指揮棒にそっくりな魔法の発動体だ、こいつがちょうどいい。

これを、錬金魔法と鍛冶魔法を駆使して形を整えていく。

錬金魔法とか鍛冶魔法とかいうのは何かというところ、MPを消費して行うアイテムの生成ことをそう呼ぶらしい。

ここには、鍛冶とかの専用の設備がないし、俺も鍛冶の知識とかがないのでこの何々魔法の類を使わないとアイテムの改造とか出来ないのだ。

設備はそのうち拠点に追加されそうだが…、鍛冶の知識は指南書とかモンスターがドロップしないかな？

おっと話しが逸れた、とにかくかなりのMPを消費しつつも【プラチナムタクト】を改造していく。

形は五芒星の意匠を施したコインにする、魔法の発動体としての機能を残しつつコインの形に形成していく、神経も使うしMPも使うで、これを直接手に持って使うのではなく、手袋の手の甲の部分に埋め込んで使用する事にする。

そうすれば手を塞がずに魔法が使えるし、見た目もアホっぽくなくていい感じだ！一度こういうの着けてみたかったんだよね。

せっかく、ファンタジー世界っぽいところに来たんだから、アホな格好を試してみるのもいい経験だと思う。

どうせだから、手袋も自作してみるか。

というわけで手袋の作成に着手した、まずは手のひら部分と手の甲部分を作ることにする。

防具の【レザージャケット】をばらしてラウムの皮を切り出す、こいつは牛皮に似ていて丈夫で使いやすい。

んでこいつを切り出し縫製したうえに、錬金魔法を使って縫製部分を融合して縫い目をなくし、あまった皮で指を出す部分を作る。

これでオープンフィンガーグローブの出来上がりだ。

錬金術は分解、融合、変質、精製という元々物理的に無茶なことができるので使い勝手がいい。

錬金術の説明については機会があったら話そう…って俺は誰に話しかけてるんだ？

こほんっ！

んで、そのままオープンフィンガーグローブとして使うのもいいのだが俺の前の世界での常識が アウトー！ と叫んでいるので指部分の作成に入る。

アホな格好はセーフだが、オープンフィンガーグローブはアウトという理由が俺にもよくわからないんだけど…、とにかくダメなんだ。指部分は動きを阻害しないように、薄くて柔らかくびったりフィットする素材で作りたい。

防具の中からよさげなアイテムを探す、確か【ゴブリン・ファイター】が落とした防具の中に…、あった【アサシンスーツ】を取り出す、見た目は体にぴったりくっつくレザー製のボンテージだ、絶対装備したくない。

ただし、こいつの間接部分に使われてるのが…シルプの皮だ。柔らかく薄くて丈夫でピッタリフィットする、手袋の指にはびつたしだ。

これも縫い付けた後に錬金魔法を使って縫い目を融合する、MPがゴリゴリ削れているが気にしない。

これで見た目立派な手袋の出来上がりだが、最後に手の甲部分を【ドッグドラゴンの上皮】を使って補強する。

こいつは【ハイドッグドラゴン】のドロップ品だ、凄く丈夫な上に炎に耐性があるらしい。

こいつに、さっき作った発動体を埋め込んで手袋に張っ付け、錬金術を使って下の皮と融合させちゃう。

ちなみに発動体は左手のほうに埋め込んだ、魔法使用中に利き手である右手を空けとくためだ。

完成した手袋を嵌めて、おててをにぎにぎする。

いい感じだ、手の動きを阻害しないし、拳を握ると【ドツグドラゴンの上皮】部分が拳を保護してくれるのでこれで殴っても拳をいためずにすみそうだ。

剣を手に持ってみると、グリップ力が増して剣を振るのが楽になった。

このグローブは【マジックグローブ】と名付けよう。

そういえば、自作したアイテムは解析をかけるとどうなるんだろう？
試しに【マジックグローブ】に解析を掛けてみた。

《【マジックグローブ】魔法の発動体として使えるグローブ、炎に耐性がある》

おお、【マジックグローブ】として認識されている。

しかし、【解析】って一体どういう基準で名前を表示したり効果を説明したりしているのかな？

今まで何気なく使っていたが、これは実験してみる価値があるかも。

とりあえず、今日はもう寝るかMPも九割近く削れたし…、無理に手順すつ飛ばしたりしたからなあ、鍛冶とか縫製の技術書とか専用の工房がほしい所だ。

16話目っぽい(後書き)

一話丸まる、手袋を作る話しに…
いつになったらシロウは迷宮出れるんだか…

17話目っぽい

朝起きると、MPは9割程度まで回復していた。
8時間睡眠で、最大MPの8割が回復したという事は寝ると1時間につき1割程度MPが回復するのだろう。

さて、とりあえず今日は【解析】の効果について調べてみる事にする。

とりあえず、目に付くもの全てに解析を掛けていってみる事に。
ドロップアイテムを解析していく…、ジーツ。

解析を掛けていった結果、説明文が出るものと出ないものがあるのがわかった。

基本的に武器は名称以外表示されないことが多い、マジックアイテムは詳しい効果が表示される。

防具とか服は材質とかが説明される、食材も詳しい情報が表示されるものが多い。

ふむう、この違いはなんだろうか？わからん。

次に、拠点にある設備を見て行く。

ガスコンロ…、炎を出すマジックアイテムの一種らしい。

シャワー…、特に情報なし、風呂…特に情報なし、蛇口…、特に情報なし。

ベッド…、特に情報なし、壁とか床…、特に情報なし。

ドア…、空間を跳躍するマジックアイテムの一種らしい、見た目は木製の一般家庭にあるようなドアなんだけどな。

庭に出て、色々見てみる。

地面…、特に情報なし、空…、そもそも対象が特定できない。
太陽…、「目があ！目があああああ！」

とりあえず情報が出るものとでない物の差は魔法のサムシングであるかそうでないかっぽい。

それだと食材や服に説明がでる理由がわからない、基本的に食材や服の材質で説明が出るものは、前の世界に存在しないものが多かったが、魔法物質ではないと思う。

ラウム肉とかただの肉だし、動物の皮や植物の繊維は魔法物質ではないだろう、たぶん。

どうして説明の出るものにバラつきがあるのだろうか？

そういえば、解析をかけた時、同じものでも情報の内容に違いがあったような…。

ん〜、よく考えてみると、今まで基本的に俺が知りたいと思った場合のみ、該当する情報が表示されていた気がする。

…という事は、だ…。

ベッドに解析を掛けてみる。

【ベッド】寝るときに使用するもの、食用には適さない
んむ、説明が出た。

今回はベッドに解析をかけるときに、これはどういったものか？食べられるのか？

といった事を”知りたい”と思って解析を掛けてみた、結果それに対する情報が得られたようだ。

食材や服に関して説明がされることが多かったのは、食い物や服の材質に対しての俺の興味が高かったからだろう。

よし、もう一度”知りたい”と思いつつ、色んなものに解析を掛けてみよう。

まずは、壁とかに掛けてみるか…。

【壁】煉瓦で出来ている、食用には適さない
いや、別に食べないし、他に情報はないのか？

【壁】煉瓦で出来ている、食用には適さない、煮ても焼いても味はかわらない

いや、食べないんで、味とかどうでもいいです。

んー、得られる情報には限度があるみたいだな、何でもかんでもまるっとお見通しとは行かないみたいだ。

とりあえず色んなものに試してみよう。

色々なものに試してみた結果、やっぱり得られる情報には限度があることが判明した。

それと、この能力、マジックアイテムや使い方がよくわからないアイテム以外に使うのはあんまり意味がなさそうだという事がわかった。

例えば剣に解析を掛けてみた場合、その剣の名称と材質、簡単な使い方ぐらいはわかるが。

その剣の作り方とか、剣技とかがわかるわけではないのだ。

とはいえ便利な能力であることには変わりはない、モンスターの場合ステータスとか見れるしね。

とりあえず、解析についてほしいの事がわかったので、俺は満足した。

18話目っぽい

さてと、解析についてもなんとなくわかったし。

今日も階層をぽんぽんと進む事にしようかな、目指せ一日5階層クリア！

というわけで、11階層のボス部屋までやってきました。

今回のボスは【ロックゴーレム】で【ウッドゴーレム】の上位互換といった感じの奴だ。

ステータスはこんな感じ。

LV	1	1	
HP	3	6	1
MP	6	5	
ST	1	2	4
STR	3	0	0
VIT	2	5	0
DEX	1	1	0
AGI	3	3	
INT	6	1	
RES	6	2	

VITがかなり高い、代わりにRESは低めだ。

ここは魔法の性能を試すところだろう。

まず、慣れていない魔法での実戦なので近づかれないように。

「顕現せよ！アースバインド！」

と、地面から足を動かさなくなる魔法を使う、これでゴーレムは移動出来なくなった。

発動の瞬間に対象の足が地面に着いてないと意味がないし、相手のRESの値によっては抵抗レジストされて効果が出ない場合がある魔法だが、ゴーレムは総じてRESが低いので抵抗レジストされる心配がないし、その超重量ゆえにジャンプしてかわすとかもできないので安心して使える。

ついでにこの魔法足がないと効かない、人型で動きが遅くジャンプできないゴーレムにはぴったりの魔法だといえる。

そして、移動の出来なくなった【ロックゴーレム】に遠間とおまから攻撃魔法をぶつ放す。

「顕現せよ！フレイムアロー！」

フレイムアローというには些かでかすぎる炎柱が【ウッドゴーレム】に直撃し、ゴーレムは粉々になった。

【フレイムアロー】強ええ、ほんとに初級魔法かこれ？

まあ、いいか、次の階層に進もう。

ちなみに今回は能力もレアアイテムも貰えなかった。

今まで貰えたのは、10階層までの初心者サービスだったのかもしれない。

（10時間後）

さて、今日はサクサク階層を進め、15階層まで進んで来ました。この階層までは特に大したイベントはなかった。

ん、強いて言うなら拠点には施設が色々追加されてことぐらいかな。

庭に離れが出来て鍛冶場とかの工房が追加されたり、一階にでっかい厨房が出来てたり、洗濯機が追加されたり、厨房にでっかい冷蔵庫庫が置かれたり。

正直、洗濯機は嬉しかった、今まで服は全部手洗いしてたからねえ。洗濯機はコインランドリーとかに置いてある縦ドラム式のデッキ奴だった。

あ、あと14階層で倒した【クリーピングブック】っていう見た目まんま本なモンスターが色んな本を落としました。

ちよつとした物語からファクション雑誌みたいなものに、技術書やら何やら、技術書の類はレアドロップだったな…。

暇なときに読んでおこう、この世界の常識とかわかるかもしれないし。

まあ、ここから出れないと常識を知っても意味がないけどね。

さて、そんなことを考えながら歩いていると、ボス部屋へと到着し

たみたいだ。

まわりは、森なのにボス部屋だけ草が生えてない砂地になっている。まあ、こここのボスを見ればさもありませんと思う。

ボスは【サンドワーム】というモンスターだった。

たぶん、地面が砂地じゃないと【サンドワーム】さんは身動き取れないんだろつ。

どうも地面にもぐって動くタイプみたいだし。

【サンドワーム】の見た目はでっかいミミズの頭部を硬そうな外骨格で覆った感じ？

で、体の半分くらいが砂に埋まっている。

ステータスはこんな感じ。

L V	1	5	
H P	3	1	9
M P	4	5	
S T	1	6	1
S T R	2	3	1
V I T	1	4	9
D E X	1	1	4
A G I	6	6	
I N T	7	1	
R E S	1	3	3

氷属性魔法に弱い

近づいて行くと、固そうな頭を振り回して頭突きをかまして来たので距離をとることにする。

距離をとるとジリジリと寄ってくる、移動速度はあんまり速くなさそうだ。

これは、【ロックゴーレム】同様遠距離から魔法を使って倒すのが楽かな？

と思っていたら、【サンドワーム】がいきなり地面に潜った。

潜ったという事は、次に来るのはあれだろう。

はい案の定、足元から強烈な突き上げをしてきた。

ただ、あらかじめ予想をしていたのにまともに攻撃を喰らってしまったのは誤算だった。

HPに50のダメージだ、高レベルじゃなかったら死んでたかも。

俺に強烈な突き上げを食らわした後に【サンドワーム】はまた地面に潜った。

どうやら 潜る 突き上げをする 潜る 突き上げをする を繰り返すつもりだろうだ。

これはまずいかも。

地下からの不意打ち攻撃はものすごく避けづらい。

そうそうかわす事はできないだろう、しかも潜っている間はこちらから攻撃できないので、必然、突き上げをしてきた所を狙い、相手の攻撃をかわした後にこちら攻撃をあてなければならぬ。

それにさっきの攻撃でHPが1割減っている、10発攻撃をもらったら THE END な計算だ。

10回の間にかわして攻撃をする事をマスター出来るとは思えない。

これは、実戦で使うのは結構不安があるが、あの魔法を使うしかないか…。

「顕現せよ！フライト！」

【フライト】魔法は文字通り、空を自在に飛び回る魔法だ。ただ、結構高位の魔法らしく扱いが難しい。

並みの魔法使いでは成功させるのがやっとで、熟練のそれも才能のある魔法使いじゃないと自在に飛びまわるとはいかないらしい。

実際俺もフラフラと浮かび上がるのがやっとで、自在に飛びまわれるとは言えない。

幸い【魔法才能】のおかげか、練習すればうまくなりそうな感触があるが、今はまだ実戦では使えないレベルだ。

まあ、今回は【サンドワーム】から距離を取ればいいので空中に浮かんでさえ居ればそれでいい。

落ちさえしなければな…。

さて【サンドワーム】だが、砂から顔を出して潜るを繰り返している。

俺に攻撃をくわえたいが、こっちが空を飛んでいる所為で攻撃する手段がないようだ。

とりあえず、潜る、顔を出すを繰り返してこちらの様子を伺っているのだろう。

潜る、顔を出す、潜る、顔を出す、潜る、顔を出す、顔を
出す。

しばらく観察をしていた結果、顔を出すタイミングが読めてきたので、それに合わせて魔法を打ち込むことにする。
確かこいつは、氷属性の魔法に弱いんだよな…。

よし、こいつを使うか。

「顕現せよ！アイスニードル！」

【サンドワーム】が顔を出したところに、ニードルというにはあまりにも巨大すぎる氷柱を放った。

【サンドワーム】は氷柱が突き刺さりった後、そのまま凍りつき粉々に砕け散った。

粉々になった氷はキラキラと輝き、小さな虹を作り出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8585x/>

異世界トリップっばい

2011年11月8日23時35分発行